

追悼の辞

人の世が、いかにはかないものとはいながらも、志半ばにして、この世を去らねばならないことは、この上なく悲しくたまらないことであります。

本日、ここに会社創立三十五周年を迎え、皆様がたの御霊の合同慰霊祭が挙行されるにあたり、労働組合を代表して、謹んで追悼の言葉を申しあげます。

今は亡き皆様は、職場にあっては、私たちの良き先輩であり、心の通い合う同僚として、常に精力的に活躍され、組合活動においてもリーダーとして、あるいは良き理解者として、他の先頭に立って行動されておりましたことが、昨日のことのように思いおこされます。

また、家庭にあっては一家の支柱としてご家族の期待を一身に背負い、たくましく、あるいは優しくあって、うるおいのある将来を目指しておられたことでしように：：、不慮の災禍により忽然とこの世を去られましたことは、まことに悲しみの極みであります。

また、ご遺族の方々にとりましては一家の支柱を突然失い、暗夜に光明を失うごとき心中を察しするときは、まことに同情を禁じえないものがあります。

私たちにとりましても、これからますます困難な情勢を迎えるとき、親愛なる皆様を失ったことは、限りなく寂しく残念でなりません。

しかし、ここにいたって皆様のご遺志に報いる途は、いたずらに天命をなげくのみでなく皆様が生前残された数々の教訓を生かし、事業の健全な運営を通じて、地域社会の発展に寄与する運動を着実に進めることあると思っております。

私たちの運動も昨年は全国の民間の組合の結集体である全労協が協議体として発足し、厳しいながらも新しい課題に向けて前進しております。私どもも、時代変化を的確に努力することをお誓い申しあげここに皆様方の御霊の永久に安らからんことを念じ、謹んで追悼の言葉といたします。

平成〇年〇月〇日

〇〇〇〇労働組合本部

執行委員長 〇〇〇〇